

男女共同参画～個人的なことは政治的なこと～

佐賀県立男女共同参画センターアバンセ館長 田口 香津子

世界経済フォーラム公表の2022年度ジェンダーギャップ指数は、146か国中、日本は116位。政治分野を筆頭に、意思決定の場に女性が参画できていない、ジェンダー後進国だ。国会議員における女性議員の割合が、世界平均25%を超えている時代に、日本はおおよそ10%。佐賀県内女性議員は、県議会2名、市町議会42名。追い風が吹いている局面も感じるが、もともとの格差解消には程遠い。

『さらば、男性政治(岩波新書；2023)』の著者、三浦まりさんは、「男性政治とは、男性だけで営まれ、男性だけが迎え入れられ、それを当然だと感じ、たまに女性の参入が認められても対等には扱われない政治」と定義する。続けて、「それは最終目標ではなく、通過点にすぎない。ジェンダー平等で多様性のある政治の実現に向けて、男性政治を壊す女性議員が増えて行けば、女性も男性もマイノリティもあらゆる人が自由に生きやすい社会になっていくだろう。」と述べている。---胸にすとんと落ちてくる言葉だ。

さて個人的な話。高校2年生の生徒会選挙、私は、信任投票でトップ当選だった。すぐに職員室に呼ばれ、生徒会担当の先生が、「吉永(旧姓)、たつてのお願いがある。生徒会長は、Nに譲ってくれないか。歴代、男の会長しかいない。」と言った。私は、思案して、良いですよ、と言った。今振り返ると恥ずかしいが、当時は、家事を強いる封建的な父親との放課後自由獲得の戦いをしてきた。生徒会長になりたくて立候補したわけではなかった。時は移り、2014年、突然、前職場の佐賀女子短期

大学の副学長に任命された直後、余りの怖さに研究室で泣いた。4年後、学長選挙で、人生二度目の所信表明演説、信任投票を経て、リーダーの重責を引き受けることになった。チャンスを与えられ、怖くても飛び込むしかなかったのだ。

正直、志高く突き進んできた経歴ではない。しかし、最初からリーダー資質適格者だと自信がある人は一握りではないだろうか。経験が人を作る、それも苦難の経験が人を成長させる。企業女性管理職も女性議員も、特別に優秀な人材と線引きされてしまいがちだが、実際は、不安や迷いの時期を経て、一緒に正念場をくぐる同志がいたから、一歩先に進む決断ができたはずだ。

先日、子育て真っ最中の20代父親と話をした。「共働きで保育園の送迎も綱渡り。家事育児の手伝いじゃなく、僕は当事者です。イクメンと持ち上げられるのも違和感がある。大変だが、子どもが愛しいと思う。」ああ、家事育児の男女共同参画も同時進行で徐々に進んでいるのだと実感した。個人の声が地域の暮らしへ政治へと、つながっている。

今年もアバンセでは、男女共同参画関係の多彩な事業を企画している(HP等で情報チェックを!)が、皆さんともパートナーシップを発揮して進めていきたいと願っている。



さが・女性政治塾 キックオフ公開講演会概要

日時：2022年6月23日(木)

18:00～20:00

場所：佐賀女子短期大学1号館教室

～メッセージ～

クオータ制を推進する会代表 赤松 良子 さん

私は女性議員を増やす政治塾「赤松塾」を2014年から開催して7年になります。この間、受講生は約350人になりました。2019年の地方統一選では10名が立候補し、うち9名が当選して活躍しております。

貴会は女性の政治塾を実施されるとのこと、議会に女性議員を増やす活躍を力強く進められることは佐賀の県民の皆様にとって政治参加を促すものになるでしょう。皆様方の活躍を祈念して挨拶とさせていただきます。

～講演～

クオータ制を推進する会役員・前衆議院議員 山崎 摩耶 さん

●政治分野における男女共同参画推進法 (候補者男女均等法)制定の経緯

「政治分野における男女共同参画推進法」はメディアにより「候補者男女均等法」とネーミングされて報道された。この法律は男女の候補者の数ができる限り均等になるよう努めるとした努力義務規定。

2021年改正法が成立し政党等の取り組み強化(4条)と、国・地方公共団体の責務等の強化(5条)等が盛り込まれた。

●「203050」と「クオータ制導入」を 目指して

現時点での積み残し課題が3点、

①「政党の数値目標の義務化」については、息長く改正を繰り返して義務化に持っていく。

②「衆議院比例名簿へのクオータ」については、比例名簿半数は女性にするために、

ア 借敗率名簿に女男女男の順にジッパー方式で載



講師の山崎摩耶さん

せる

イ 比例単独1位は全部女性にする

ウ 特定枠を使って1政党2名ずつ女性を載せるなどを取り入れる。

③「政党交付金の女性議員数を勘案した配分」については、韓国のように女性議員が多ければ政党交付金を加算し、少なければ減額するという配分があってもよい。

女性議員数の現状を見ると、区市町村議会で女性議員ゼロは275議会(15.8%)と、まだまだの現状。

次にクオータ制を導入している国はルワンダ、ニカラグア、スウェーデン、ボリビア、ノルウェー、フランス、ドイツ、韓国の8カ国、そのほかクオータ制を導入していないけど女性議員比率の高い国が、キューバ、アラブ首長国連邦、ニュージーランド、アメリカ。

朝日新聞が行った「女性議員を増やすべき」に対する意見では、ヤング世代は8割超が女性議員が増えたほうがいいと思っているが、実はこの世代は投票率が低い。「選挙に行こう」「比例分は女性に入れよう」というような選挙に関するアクションが必要。

韓国では2000年に政党法を改正してクオータ制を導入した。比例代表の50%に女性を導入となっていて、名簿の奇数が女性候補と規定されている。また、小選挙区で女性候補を多く擁立した政党に対して女性候補の選挙経費を支給している。

台湾も、議席割り当てと候補者クオータで2016年段階、女性議員の割合は38.4%。

フランスは立候補時、男女ペアで立候補するパリテ法が成立。



公開講座の様子



公開講座配布資料

●今後の展望

ジェンダー・メインストリーミング

近未来の日本のリスクは少子化、しかし最大のリスクは女性議員が少ないこと。もうすぐ出生数が80万人を割る。このことは見方によっては女性がノーを突き付けている。今の暮らしや政治や経済に展望が持てない状況になってしまっているのではないか。こうした様々なリスクを解消する政策に女性議員が少ないことが最大のリスクではないかと思っている。女性議員を増やして、なんにでも優しい社会を創ることが大事。そのために必要なことが、

- 1 候補者男女均等法を改正しクォータ制を導入
- 2 政党のジェンダー平等政策の本気度の可視化と外圧
- 3 行政府(男女共同参画局、総務省等)によるアクションー第5次計画では政治も経済もあらゆる分野で35%を目標
- 4 私たちにできる女性候補者・政治家の人材育成と支援システム
- 5 選挙制度・公職選挙法の改正
 - ～比例区のクォータor名簿記載方式
 - ～立候補を促進する仕組み(在職立候補や休暇制度・供託金・選挙運動の見直しなど)
 - ～女性議員の家庭と議員活動の両立など様々な環境整備

●最後に私たちにできることは何か

- 1 クォータ制の導入に反対なのは与党か男性達か考えてみる
- 2 私たちにできる「政治は生活そのもの」=家庭や学校での政治教育、「性別役割分担意識」の払拭
- 3 候補者育成・支援策・仲間づくり

4 女性議員の活躍と議会の変化などのデータ

5 生活に身近な地方議会から女性議員をどう増やすか
これらを頑張ってやっていただきたい。

※この講演会はオンラインで開催しました。

さが・女性政治塾 公開講座を視聴して

受講生 平川登紀

「企業のトップやその道の専門家と呼ばれる方々、海外では女性も多いのですが、日本はなぜ少ないのだろう？」これは私が米国留学中に感じたことです。今も同じ思いですが、その後これに女性政治家が加わりました。女性の政界進出が珍しいことではなく、首相が女性という国も増えています。日本は女性の政治家が増えてきたとはいえ、まだまだ男性それもおじいちゃんたちがドカッと居座っている印象です。これからの日本の未来を託そうとは到底思えない面々がテレビに映る度、「これどうにかならないの？」と考えていました。

公開講座での「政治は生活そのもの」という言葉、とても印象に残りました。日本に生きている私たちは日本をどうするか当事者だという意識、この意識を持つことに性別は関係ありません。しかし、当事者として女性が語るとき、男性の意識の根底にはまだまだ「女性は黙っていなさい」という気持ちが見え隠れすることがあります。

世界は、「排除」ではなく、「共生」の社会を目指しています。先進国として他国のモデルとなるべき日本において、この女性議員の少なさは女性が「排除」されているように映り、国際的にグッドな状況とはいえません。

今回の公開講座を視聴し、私も当事者意識が欠如していたと気づきました。国際社会の一員として、日本人として、女性として、自分がどうこの国にかかわっていけるのか、政治をもっと身近に感じるにはどうすればよいのか、私自身が多くのことを考えるきっかけとなりました。ありがとうございました。

さが・女性政治塾2022を実施しました

さが・女性政治塾への背景と趣旨

2021年以來、佐賀県内市町議会議員選挙では、女性の活躍が目立ちました。

しかし、昨年5月現在、20市町の女性議員の割合は13.1%と30%にはほど遠く、女性議員が一人もいない議会がまだ3町あります。

子育て支援や介護の問題はすべて政治に繋がっていますが、その制度を決定する国会や地方議会に実情をよく知る女性の視点が足りていません。虐待や貧困などを抱える女性たちの声が政治に反映される必要があります。私たちNPO法人「女性参画研究会・さが」は、設立以来、四半世紀を超え、一貫して政策・方針決定の場に女性を送り出す活動を続けてきましたが、まだまだ目標には遠く及びません。佐賀を、誰もが生きやすい地域に変えていくためには、もっと女性の力が必要です。

そこで、「さが・女性政治塾」を開講し、共に学び、考える機会を持ち、次なるステップにつなげたいと考え、議員を志す人、議員を志す人を支援する人、現職議員、政治に関心ある人、何かを変えなければと思うけれど何をしようかわからない人に参加を呼びかけました。準備不足もありながら、30歳代から60歳代までの11名の受講生を迎えました。

【開講式】

日時 2022年7月23日(土)13:30～14:30

場所 佐賀市メートプラザ

主催者及び共催者の挨拶、オリエンテーション、スタッフ紹介、受講者自己紹介を行い開講式を終えた。

【第1講】

講義 「なぜ女性議員が必要か」

講師 服部香代さん(熊本県山鹿市議会議員)

講義要旨

人口の半分以上が女性なのに、議員は何故男性ばかりなのかと思って、女性議員をつくらうと運動した。家族の理解をはじめ、議員になることのハードルは高かった。

女性議員が増えることにより暮らしの課題が政治に取り上げられ、議会が身近になる。政治と暮らしは密着



開講式で挨拶する山崎会長



第1講講師 服部香代さん

しているからこそ男性だけの気づきではなく、女性も含めて多様な意見を反映できるような議会になるべき。

【第2講】

日時 2022年8月20日(土)13:30～16:00

場所 佐賀市メートプラザ

講義 「学校現場から見た女性や子どもの問題」

講師 寺本葉子さん

(スクールソーシャルワーカー・精神保健福祉士・社会福祉士)

講義要旨

スクールソーシャルワーカーとは、いじめや不登校、虐待、貧困など、日常生活における問題に直面する子どもを支援する社会福祉の専門家。

全国的に情緒障害の子どもたちが増えてきている。佐賀県においても自閉症スペクトラムとかADHDといわれる障害を持った子どもたちが、10年前は教室に2～3人だったが今は教室に1割強になっている。この子どもたちを早い時期から支援することで、働ける人になる。働ける人になって、納税のできる人になって、世の中の仕組みが回っていくようにすることはとても重要である。早期の支援が必要である。スクールソーシャルワーカーの



第2講講師 寺本葉子さん

活動は、学校の範囲を超えて家庭や母親支援をすることで、子どもの安心安全な生活と育ちを守っている。

グループディスカッション「政策を考えよう」

受講生は前半の講義を受けて、3班に分かれてグループコーディネーターの指導の下、政策提言をまとめた。

A班・・・「発達障害を考えよう」

B班・・・「ひとりぼっちにしない」

C班・・・「学校の自由選択」、「ウォーキングエコ」

【第3講】

日時 2022年10月22日(土)13:30～16:00

場所 佐賀市メートプラザ

講義 「新人議員の話を聞こう」

講師 服巻玉美さん 神崎市議

加藤奈津実さん 伊万里市議

一ノ瀬裕子さん 佐賀県議

講演要旨

三人の新人議員が、立候補したきっかけや、選挙に係った費用、壁となったもの、選挙方法の学び方、初めての議会で苦労したこと等について話した。

グループディスカッション「議員になったらやりたいこと」

受講生は3班に分かれてグループコーディネーターの指導の下、各自の「議員になったらやりたいこと」を5分以内で発表できるようにまとめる作業を行った。講義最終日の11月19日にそれを発表し、それぞれに講評がある。



第3講の様子

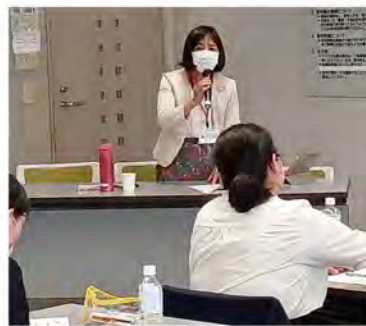
【第4講】

日時 2022年11月19日(土)10:30～16:00

場所 佐賀市アバンセ

受講生プレゼンテーション

受講生7名は各自5分以内でプレゼンテーションをし、その後講評を受けた。



第4講で講評する盛泰子さん

修了証授与式

修了証を渡した受講生は11名中9名。

講義 「立候補するための準備について」

講師 内野さよ子さん 佐賀県女性議員ネットワーク副代表
増田朝子さん 佐賀県女性議員ネットワーク事務局長

立候補のための準備や、県・市町議会議員選挙のルール等をまとめた「選挙あれこれ」をもとに講義が行われ、その後活発な質疑応答が行われた。

【閉校式】

2022年度「さが・女性政治塾」が終了した。



閉校式を終えて

さが・女性政治塾

受講後アンケート集計結果(記述部分)

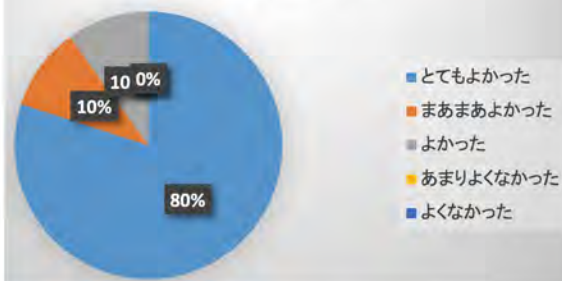
1 受講してよかったですか？

- ・興味はほぼなかったが、普遍性(より多くの方へ伝える方法)などたくさん学び興味ができました。
- ・色々政治に興味をお持ちの女性の方たちとお知り合いになれたことが財産となりました。
- ・現職の方々とお会いする機会は少ないのでとても貴重でした。一緒に受講した方も様々な経験を持っていて、話していてとても楽しかった。
- ・女性議員として何ができるのかと悩んでいた時に、まず、服部議員のお話で自信ができました。

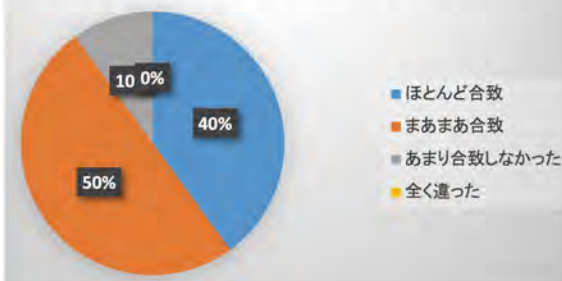
(→次ページへ続く)

さが・女性政治塾 受講後アンケート集計結果

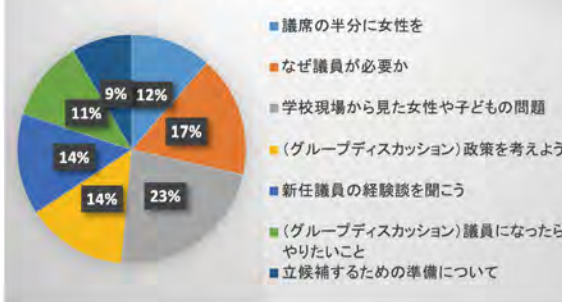
1 受講してよかったか



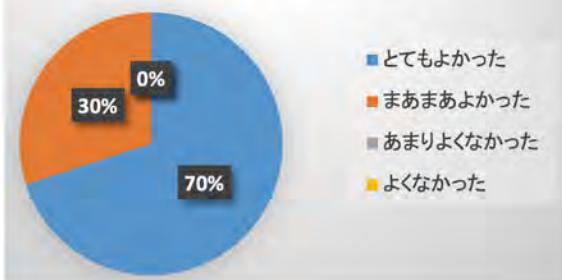
2 講義内容は受講目的に合っていたか



3 役に立った講義は何か



6 運営方法はどうかだったか



7 あなたの現状は



(前ページからの続き)

2 講義内容は受講目的と合致していましたか?

・女性議員がやはり必要と痛感しました。

3 役に立った、参考になったと思う講座はどれですか?

・少しずつ自分が議員になったらという気持ちに本当になってきました。

4 他にどのようなテーマの講座があると良いと思いますか?

・実際に政策につなげるまでのプロセスとか
・選挙の基本のき。公職選挙法について。

5 どのようなスキルを学びたいですか?

・応援団(後援会)の作り方。
・話し方、伝え方。

6 運営方法はいかがでしたか?

・2回目と3回目のテーブルメンバーが変わるとい
いるな受講生話が出来たかとも思いました。

7 今後に向けて、政治塾に対するご意見やご希望をお聞かせください。

・運営等、機会があればたずさわれたらと思います。
議員に興味は湧きました。

・続けてほしいです。

8 今回の「さが・女性政治塾」開講をどこでお知りになりましたか?

・佐賀新聞・・・1
・友人・知人・・・3
・チラシ・・・1
・Facebook・・・1
・活動団体・・・1

編集後記

「女性参画研究会・さが」は1996年の発足以来、「女性をもっと政策方針決定の場に」をスローガンに活動してきました。発足当時に比べれば上昇したとはいえ、2022年12月31日現在で佐賀県内の県・市・町の女性議員の比率は12%、当面の目標としてきた3割には程遠く、まだ上峰、玄海、有田の3町は「女性議員ゼロ議会」です。

2023年の統一地方選挙をにらみ、「女性参画研究会・さが」と「佐賀県女性議員ネットワーク」は連携して「さが・女性政治塾」を立ち上げ、昨年6月にキックオフ公開講演会を開催しました。1985年の男女雇用機会均等法の制定に尽力された女性活躍のパイオニア、元文部大臣の赤松良子さんもビデオで期待の声を寄せて下さり、感激すると共に、塾継続への決意を新たにしました。

世界女性の日に公表された「都道府県版ジェンダーギャップ指数」によれば、佐賀県は政治分野で全国41位と大変低い順位です。11人の塾生の中に統一地方選挙に立候補を検討している人が複数いることから、この中から一人でも多くの議員が誕生することを願っています。

(内田信子)